

OKADA-ROOM Vol.23

岡田三郎助—風景画の視線—

会期 2022年3月11日(金)～2022年5月29日(日)

佐賀県立美術館は開館以来、明治から昭和初期にかけて活躍した佐賀県出身の日本近代洋画の巨匠、岡田三郎助(おかだ・さぶろうすけ、1869～1939)の画業と人物を顕彰してきました。

今回の展示は、岡田三郎助の描いた風景画を紹介します。日本近代美術史において「風景画」という言葉が誕生したのは、1897(明治30)年頃だと言われています。当時、岡田は洋画グループ「白馬会」のメンバーとして活動し、白馬会の画家たちと共に身近な自然や風景を盛んに描きました。それらの作品は清新な感興をもって明治の人々を大いに魅了し、風景画というジャンルが根を下ろす契機にもなりました。

一般的には人物画、特に女性像の美しさで知られる岡田ですが、実は現在確認できる作品の約半分は風景画であると言われています。アトリエを中心とした身近の光景や風光明媚な旅先の自然など、多彩な風景に心を震わせた岡田は、生涯にわたって風景画を好んで描きました。本展では、印象派風の闊達なタッチが特徴である《桃の林(大石田横手村)》や、熱海で描かれた晩年の大作《伊豆山風景》など、館蔵の風景画の名品16点を御紹介します。瑞々しい色彩が交響する岡田の手による風景の数々をお楽しみください。

No.	作品名	英訳	作者名	制作年	材質	所蔵等
1	大磯風景	Landscape of Oiso	岡田三郎助	1894(明治27)	油彩・板	館蔵
神奈川県の大磯に取材した作品。岡田は本作を制作した1894(明治27)年に初めて黒田清輝を知り、その明るい画風に大きく影響されるが、本作はその感化を受ける以前の作例といえる。右下の書き入れから、画家がのち1937(昭和12)年に文化勲章を受けたおりに、受章記念として父方の石尾家へ贈呈した作品であると考えられ、とりわけ思い入れのあった一枚と思われる。						
2	八瀬の里	Yase of villege	岡田三郎助	1906(明治39)	パステル・紙	館蔵
八瀬とは京都・比叡山の麓に位置する小村の名前。この年の春、岡田はフランスで知り合った洋画家の小林千古と京都に遊び、共に制作に励んだ。牛に車を引かせる農夫の奥にそびえる山が比叡山であろうか。山の量感がパステルで的確に表現されている。パステルの柔らかい調子を岡田は好み、留学中からたびたび用いていた。						
3	富士山図	Landscape of Mt. Fuji	岡田三郎助	制作年不詳	鉛筆・紙	館蔵
鉛筆でデッサンされた富士山の素描である。構図は油彩画の《富士山(三保にて)》と酷似しており、色名がフランス語で書き込まれていることから、《富士山(三保にて)》の構想を練る際の下絵であると考えられる。岡田の制作過程をうかがい知る数少ない資料の一つとしても貴重な作例といえる。						
4	富士山(三保にて)	Mt. Fuji (view from Miho)	岡田三郎助	1920(大正9)	油彩・カンヴァス	館蔵
三保の松原から富士を望む風景である。明け方の光が雄大な富士山を照らす風景が、透明感のある色彩で描かれている。朝日に輝く雪を被った山頂、グラデーションをなす空や山肌の色彩が優美であり、現存する岡田の風景画で最大という作品の大きさにも関わらず、画面全体の調和が保たれている。富士山は霊峰とされ、古くから描かれてきたが、近代には国家を象徴するモチーフとして描かれるようになっていった。						

No.	作品名	英訳	作者名	制作年	材質	所蔵等
5	庭	Garden	岡田三郎助	1919(大正 8)	油彩・カンヴァス	館蔵
<p>描かれた場所は不明だが、アトリエの近くであろうか。奥行きのある堅実な構図、写実性をふまえながらも速度感のあるタッチが印象的な小品である。なお大正 8 年、アトリエ内で本作を制作する岡田の姿が撮影された写真が残されている。</p>						
6	収穫	The harvest	岡田三郎助	1912(明治 45)	油彩・カンヴァス	館蔵
<p>朝焼けか夕焼けだろうか。画面全体が光に包まれる中、三人の人物が田んぼで収穫している。本作は、1895 (明治 28) 年に描かれた同名の作品 (福岡県立美術館蔵) と内容・構図がほぼ同一で、同作のリメイクのような位置づけの作品と考えられる。なぜ 20 年前の作品を描き直したかは定かではないが、まだ駆け出しの画塾時代に描いた日本風景に、その後岡田が一貫して追求することとなる「日本的な洋画」への手がかりの一片を見出したのではないだろうか。</p>						
7	銅版画「帰途」	Etching of “On the way home”	岡田三郎助	制作年不詳	銅版画 (エッチング)・紙 (フランス製 BFK)	寄贈
8	桃の林 (大石田横山村)	Peach Garden (Yokoyama- mura, Oishida)	岡田三郎助	1917(大正 6)	油彩・カンヴァス	館蔵
<p>山形県北村山郡横山村 (現在の大石田町) には、りんごや桃、桜、すもも、梨の木が茂る広大な果樹園があった。知人にここを紹介された岡田はすっかり気に入って、本作を描いた。霞がかかった空に向かって枝を伸ばす桃の木々が、リズムカルなタッチの厚塗りで表現され、みなぎる生命力を見る人に伝える。</p>						
9	丹霞郷	Tanka-kyo	岡田三郎助	1933(昭和 8)	油彩・カンヴァス	個人蔵 (寄託)
<p>1933 (昭和 8) 年 5 月、岡田をはじめとする 10 人の画家、美術評論家たちが長野県へ招かれた。彼らは長野市へ向かう途中、中郷村平出 (現・飯綱町平出) を通過した際に桃の花が美しい果樹園を見出し、賛美して「丹霞郷」と名付けた。岡田はしばしば長野へ写生旅行に赴き、丹霞郷へは 1937 昭和 12 年までで 5 回ほど訪れたという。</p>						
10	子持山	Mt. Komochi	岡田三郎助	1934(昭和 9)	油彩・カンヴァスボード	館蔵
<p>子持山は群馬県沼田市の南西に位置し、景勝地として名高い。本作は岡田宅の近所に在住していた西畠先生なる人物が転居する際、岡田が餞別として贈ったものだという。この年の 12 月、岡田は帝室技芸員の一人に任ぜられる栄誉を得る。66 歳のことであった。 「呈/西畠先生/岡田.三/昭和九・三」、第 9 回春台美術展出品作。</p>						
11	ローマの古橋	Old Bridge of Rome	岡田三郎助	1930(昭和 5)	油彩・カンヴァスボード	館蔵
<p>古代ローマ時代に建設されたローマ郊外の橋、ノメンターノ橋 (Ponte Nomentano、現在の橋は 19 世紀の再建) を描いた作品。寒色を多用し、静かで抒情的な画面をつくりだしている。岡田は昭和 5 年に欧州視察に赴いており、ローマを訪れた際に、この橋まで足を伸ばしたことが分かる。实景を前に描いた作品ならではの新鮮な感興があらわれている。</p>						

No.	作品名	英訳	作者名	制作年	材質	所蔵等
12	コロアの池	Corot's Pond	岡田三郎助	1930 (昭和5) 頃	油彩・カンヴァス	個人蔵 (寄託)
13	風景習作 18	Study of Landscape 18	岡田三郎助	制作年不詳	墨・紙	館蔵
14	風景習作 19	Study of Landscape 19	岡田三郎助	制作年不詳	鉛筆・紙・木炭	館蔵
15	伊豆山風景	Landscape of Mt. Izu	岡田三郎助	1935(昭和10)	油彩・カンヴァス	館蔵

岡田にさかのぼること約 100 年前、バルビゾン派の風景画家、カミーユ・コロア (1796-1875) はパリ近郊のヴィル＝ダヴレーに別荘を構え、湖を題材に多くの作品を制作した。ヨーロッパでの旅の道中、岡田はこの湖を訪れ、コロアの愛したこの地で制作を行った。柔らかな配色とうねる筆致が特徴的である。

1935 (昭和10) 年、岡田は伊豆・熱海を訪れ、本作を描いた。森の陰影の描写は湾の稜線を際立たせ、穏やかに打ち寄せる海面との間にコントラストを生み出している。熱海には1895 (明治28) 年から鉄道が開通し、東京からほど近い景勝地として、当時多くの文化人や観光客を集めていた。

16	絵具箱・パレット	Palette and Paintbox	岡田三郎助愛用		木製	館蔵
----	----------	----------------------	---------	--	----	----

岡田が実際に制作に使用していたパレットである。裏面に「1897Paris」とのサインがあり、留学の際にパリで入手したものであると考えられる。中央部分には、白色を混色して作られた淡い黄色やピンク、緑の絵具が残されており、岡田が描く女性の艶やかな肌に使われる色の数々を思わせる。絵具箱には「昭和14年5月16日岡田三郎助」と直筆の署名がある。



写生中の岡田三郎助



長野県への写生旅行にて。カメラを手にした岡田三郎助



長野県への写生旅行にて。馬上、右から3番目が岡田三郎助。



岡田三郎助アトリエ・女子洋画研究所 (県立博物館東側)

岡田三郎助は、1908（明治41）年から1939（昭和14）年まで、現在の東京都渋谷区恵比寿で暮らし、制作に打ち込みました。自宅に隣接したアトリエは木造の洋風建築で、岡田の没後は洋画家の辻永（つじ・ひさし）が譲り受けました。その後、辻家の人々により守られた後、2018（平成30）年に佐賀県立博物館東隣に移築・復原されました。

このアトリエで岡田の名作の数々が誕生し、またその一室は、彼が主宰した画塾「女子洋画研究所」の教室として使用され、数多の女性画家たちが巣立ちました。

御来館の際は、ぜひアトリエもあわせて御見学ください。

佐賀県立美術館

〒840-0041 佐賀県佐賀市城内1-15-23

TEL. 0952-24-3947 FAX. 0952-25-7006

E-mail: hakubi@pref.saga.lg.jp Web. <http://saga-museum.jp/museum/>